

持続可能な社会の実現に向けて、地域の一人として豊かな生活を実践できる生徒の育成 ～家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活を営むための力を育む学習活動を通して～

VI 第5分科会 家族・家庭生活

1 はじめに

これからの「知識基盤社会」においては、生徒が情報を的確に活用しながら探求的に学び、自分の生き方や世の中のしくみのあり方を考えていく学びは、重要である。SDGsにつなげる学習は、生徒が様々な問題について思考し、知識や情報を基に解決策を考えたり、議論したり、表現したりするまさに主体的・対話的で深い学びの機会となり得る。

地球的な課題である「持続可能な開発」の実現を目指すSDGsと家庭科とがどう関わるのかを明らかにして、それにつながる学習内容や授業を具体的に考えていく必要がある。

生徒の取り巻く環境は急速に変化しており、また、全世界に猛威を振るっている「新型コロナウイルス感染症」の影響は社会や生活に大きな影響を及ぼしている。

このような時代、社会の変化が加速度を増し、予測困難となってきた今、本研究では、家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活を営む力を育み、未来を切り開くための資質・能力の育成の充実を図ることを、研究主題として設定した。

2 研究のねらい

(1) 生徒の実態

技術や生活の営みに関する生徒の意識調査を実施した結果から

- ・「家庭の基本的な機能」については「聞いた

ことがある」は2割程度、「説明できる」は2割に満たなかった。

- ・「家庭生活」について、「知りたい」と答えている生徒は女子が15%に対して、男子は35%と女子よりも関心が高いことが読み取れた。
- ・「持続可能な社会」については「説明できる」と答えた生徒は1割であった。

家庭分野を学習する生徒の現在の状況については、「普段の生活や社会に出て役に立つ、将来生きていく上で重要という学習への関心や有用感が高い。」「家族の一員として協力することへの関心が低い。」「家族や地域の人々との関わることや、家庭での実践や参画することが十分でない。」の3つが挙げられ。

生徒を取り巻く社会の状況については、「グローバル化や少子高齢化社会の進展」「家族・家庭生活の多様化」の2つが挙げられる。

そこで、現在の生徒たちの課題は、家庭生活や社会環境の変化によって、家族の一員として協力することへの関心の低さや、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分でないことが課題である。そのため地域の一員として、自ら行動しようという意欲を高める指導が求められることから、次の5つの指導を考える。

- ア 地域の人々との関わりについての関心を高める指導

イ 家族関係をよりよくするために家族の一員としてどのようなことができるかを考える指導

ウ 幼児の心身の発達（社会性）に応じて幼児との関わり方を工夫する指導

エ 地域の一員として、自ら行動しようという意欲を高める指導

オ 持続可能な社会を踏まえて、よりよい家庭生活の実現に向けて自ら行動しようとする姿勢

（2）目指す生徒像

- ・ 家族や地域の人々と協力・協働し、家庭生活をよりよくしようとする生徒
- ・ 家族・家庭や地域における生活の課題を解決しようとする生徒
- ・ 地域の一員として豊かな生活を実践できる生徒。

（3）研究の仮設

SDGs につなげる学習を展開することで、生徒が様々な問題について思考し、知識や情報を基に解決策を考えたり、議論したり、表現したりすることができ、持続可能な社会の実現に向けて、地域の一員として豊かな生活を実践できる生徒が育つと考える。

3 研究内容

（1）3年間を見通した年間指導計画の作成

小学校家庭科の学習を踏まえ、中学校3年間の見通しがもてるよう、各学年にAの学習内容を配置し、B、Cの学習内容にもAの学習内容と関連づけストーリー性をもたせた学習を計画的に取り入れた。

第1学年	A 家族・家庭生活 (1) ガイダンス 家族・家庭生活の機能	・ ガイダンス ➡ 持続可能な社会 SDGs とつなげる ・ 家族・家庭生活の基本的な機能
第2学年	A 家族・家庭生活 (2) 幼児の生活と家族 (3) 高齢者とのかかわり	・ 幼児の生活 ➡ 幼児を中学校に招待 幼児との関わりを中心にした幼児の心身の発達の理解 ・ 地域（高齢者含）とのかかわり 地域行事や地域団体との協働
第3学年	A 家族・家庭生活 (4) 家族・家庭や地域とのかかわり	・ 家族・家庭生活や地域社会とのかかわり ➡ 地域行事、地域活動への協働 ➡ 持続可能な社会SDGs とのつながり

（2）問題を見極め課題を設定する学習活動について課題解決の手立

① 「見方・考え方」を働かせ、質の高い学びを実現するための指導工夫

家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活に向けて工夫する活動を取り入れる。

② これからの生活を展望し、課題を解決する学習過程の工夫

なぜ、幼児、家族や地域と関わらなければならないのか、どのような関わり方が必要なのか、課題の設定に重点を置く。

③ 持続可能な社会の実現に向けた学習活動の工夫

(3) 20時間の学習内容の工夫

4つの題材・フェーズ各題材を通して育成する資質・能力を明確にし、子どもが課題を追求し解決していく過程の中で、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫、創造できるように毎時間の連続と継続の授業設計を作成した。また、生徒の課題発見を重要と捉え、生徒の学習する必然性をもたせるための工夫を図った。

	1	2	3	4
各小題材で身に付ける資質・能力	生活を見つめ課題を見出す	解決方法を考える計画する	解決する	評価・改善する
Iフェーズ・A(1) 自分の成長と家族・家庭生活④	家族関係をよりよくするためにはどのようにすればよいか			
IIフェーズ・A(2) 幼児の生活と家族⑥	子どもが育つ環境を整えるためにはどのようにすればよいか			
IIIフェーズ・A(3) 家族・家庭や地域との関わり⑥	高齢者など地域の人々と関わっていくためにはどのようにすればよいか			
IVフェーズ・A(1) 自分の成長と家族・家庭生活④	よりよい家庭生活を営むためにはどのようにすればよいか			

【Iフェーズ】 4時間

学習課題 「家族関係をよりよくするためにはどうすればよいか」

第1学年のガイダンスでは、SDGsとの関連を図り、自分の生活を変えることで、持続可能な社会の実現に気づかせる。その後、SDGsの観

点から自分の見直しを図ることから家族・家庭生活の基本的な機能について学び、家族の一員として行動できるようにする。

【IIフェーズ】 6時間

学習課題 「子供が育つ環境を整えるためには、どうすればよいか」

第2学年は幼児との触れ合う活動がなぜ必要なのかを考えさせることから始め、直接的な体験を通して、幼児の心身の発達を理解できるようにする。幼児を中学校に招く方法と、中学生が幼児のいる施設に訪問する方法、またICTの活用などでのメリット、デメリット等を今後検証していく。

【IIIフェーズ】 6時間

学習課題 「高齢者など地域の人々と関わっていくためにはどのようにすればよいか」

さらに、第2学年では今回の学習指導要領の改定に伴って新しく加わった、「高齢者との関わり方」について、地域行事や地域活動、地域団体などとタイアップし、中学生が地域の人々とともに課題意識を抱き取り組み、主体的に話し合ったりする活動を計画した。主体的に地域の一員として課題解決できるようにする。地域の状況により工夫、内容の充実を図ることで様々な活動を広げられると考える。

【IVフェーズ】 4時間

学習課題 「よりよい家庭生活を営むためにはどのようにすればよいか」

第3学年ではこれまで3年間学んできたストーリーのまとめとする。1学年のガイダンスに戻り、3年間の学びから、個々の生徒が構築してきた家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活を営むためにはどのようなことができるかを振り返らせ、今後は社会の一員として持続可能な社会の担い手となり、社会とつながる工夫、解決ができるかを確認させる。その基盤となるのは家庭生活であり、家庭生活と地域は相互の関係で成り立っており、地域との協働の必要性を理解し、主体的に課題解決し、実践できる力をつける。

(4) 工夫した教材について

【1フェーズ】において

学習課題 「家族関係をよりよくするためにはどうすればよいか」

自分の生活を変えることで、SDGsとの関連、持続可能な社会の実現に気づかせる。今の自分にできる小さなことから考える。SDGsの観点から自分の見直しを図り、家族・家庭生活の基本的な機能について学び、家族の一員として行動できるようにする。

① 教材 アニメーションの活用



家族・家庭生活の多様化のため、架空の家族の生活を想定し、プレゼンテーションソフトを活用した視聴覚教材を作成した。その中から学習内容に興味・関心をもたせ、意欲的に、課題を探り解決できるようにした。家族について様々な考えを知ることによって自分の生活を振り返らせた。

② 発問の工夫

家族関係をより良い方向へ考えられるよう、発問を工夫した。「これまでの授業では「〇〇についてどのように考えますか?」「〇〇については△△です」等、知識を教える形式、考えを引き出すだけにとどまる授業活動が多かったが、「〇〇を学習するのはどうして?」「〇〇について何が課題か」「課題を解決するために何が必要か」

「他の解決はないか」など、もっている知識を活用させ、思考や認識課程において適切な発問を行う工夫をした。

③ 家族関係をよりよくすることは、SDGsの取り組みの一歩

SDGsの視点からの学習計画は、SDGsの17の目標、その中の169のターゲット、さらに232の指標の中から自分の身近にあること、自分にできることから取り組むことで、自分や家族の問題としても捉える事ができ知識や情報を基に解決策を考えることで、自分も家族の一員として家族関係をよりよくするための行動ができた。

4 成果と課題

(1) 成果

3年間を見通した年間指導計画の作成、小学校家庭科の学習を踏まえ、中学校3年間を見通しがもてるよう、各学年にAの学習内容を配置し、B、Cの学習内容にもAの学習内容と関連づけストーリー性をもたせた学習を計画的に取り入れたことで、学習の効果が向上した。また、課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、資質・能力を育成できた。家族関係をよりよくするために家族の一員としてどのようなことができるか考える指導の充実を図ることで、地域の一員でもあることの理解を深めることができた。

(2) 課題

今後研究を進める上で次のような課題と改善が必要である。

① 関わりについての関心を高める指導

- ・幼児の心身の発達(社会性)に応じて、幼児との関わり方を工夫する指導
- ・地域との関わりから、地域の一員として、自ら行動しようとする意欲を高める指導

② コロナ禍での新たな教材の工夫

現在、特に幼児や地域の高齢者との交流体験が行えない状況である。今後は、ICT等を活用した「新たな教材」、「新たな交流授業」の工夫改善が必要である。また、外部人材の活用を重要ととらえ、人材活用の工夫にも力を入れ研究の推進を図っていく。